

碑文

満洲開拓青年義勇隊碑の由来

この碑は京都府から送出された二千名の満洲開拓青年義勇隊(内地では満蒙開拓青少年義勇軍と呼ぶ)の事蹟を顕彰し殉難隊員慰霊のため建立するものである。

我が国の生命線と言われた満洲の開拓は日本民族発展の重要國策として推進され、その中核となったのがこの義勇隊である。隊員は歳ようやく十四、五才にして家郷を離れ辺境に新しい村づくりを志し、大陸に鋤を振り銃を執って食料増産を北辺、鎮護に挺身したのである。しかるに昭和二十年八月敗戦によって建設の夢破れ、戦乱の大陸を砲火に追われ飢えと病の死の避難行となり五百名の隊員は夏草の下、凍土の上に斃れて未だ帰らず戦後二十五年を経たのである。

かつて大陸開拓に寝食を共にした同志拓友相はかり各方面の協力を得て、靖國の神となり護國神社に合祀された靈山の聖地を選び拓魂安らかに鎮まり、永遠に祖国の平和と繁栄を守り給えと祈るものである。